

●日本国憲法より●

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

協同で創る健やかライフ

健 康

第749号

発行所

〒036-8045
弘前市大字野田2丁目2の1
津軽保健生活協同組合
発行責任者 泉谷雅人
電話 0172-33-7515
ホームページ <http://www.tsugaru-health.coop>
Eメール kenkou@tsugaru-health.coop
印刷所 有限会社新和印刷
○組合員の購読料は出資金に含まれます

健
康
2025.8
第749号

厚労省で記者会見 (2025.6.12)



診療報酬の抑制によって、医療が危機を迎える。開業医らで構成する「全国保険医団体連合会」(保団連)が4月17日の県庁訪問に続き、6月12日、厚生労働省で会見を開き、全国の病院が経営難に陥っており、このままでは医療が崩壊しかねないと訴え、診療報酬の引き上げを求めた。

「もう限界だ」医療現場から悲鳴…診療報酬の抑制で病院経営が苦しく「崩壊の危機」保団連が訴え。健生病院からも代表として出席した。

診療報酬・介護報酬など制度の充実

さらに近年は物価や人件費、光熱費の急激な上昇が続いているが、診療報酬はこれらのコスト増に全く追いついていません。2024年の診療報酬改定でも、経営の改善にはほど遠く、多くの病院が赤字を深刻化させています。もはや病院や介護施設などの医療機関の自己努力だけでは、この危機を開拓することは不可能な状況にあります。

この危機は病院だけの問題ではありません。地域から医療機関がなくなるということは、住民の皆さんが病気やけがをしたときに「安心して医療を受ける権利」「受療権」が失われるということです。地域医療の崩壊は、私たちの暮らしと命に直接する重大な問題なのであります。

津軽保健生活協同組合では、「地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持存続への支援を求める請願署名」を取り組んでいます。この署名は、私たち自身と次の世代の「安心

のため、医療報酬・介護報酬など制度の充実をはじめとした制度を

請願署名への取り組みスタート

して医療を受けられる「安心して住み続けられるまち」を未来へつなぐために、ともに声をあげましょう。

(常務・角田尚樹)

社会保障費を国が抑制

この背景には、国で、診療報酬が長年にわたり社会保障政策のもと、たって抑えられてきた事

日本の医療機関は今、かつてない経営危機に直面しています。2024年度の医療機関倒産は64件、休業・解散は786件と、いずれも過去最多を記録しました。6病院団体(日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

科病院協会・日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会)の調査では、全国の69%の病院が赤字という深刻な状況にあります。6病院団体は「地域医療は崩壊寸前」と訴え、診療報酬の抜本的な改善と社会保障抑制政策の見直しを強く求めています。

地域医療を守るために、社会保障の充実を求めるよう 6病院団体が地域医療は崩壊寸前と訴える!



専務 泉谷雅人

● 6病院団体の訴えポスター ●

日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神科病院協会
日本慢性期医療協会・全国自治体病院協議会

ご存じですか?
あなたの街の病院がいま危機的状況なのを!!
地域医療はもう崩壊寸前です

1. 診療報酬は公定価格です。しかし物価・賃金の上昇に対応して診療報酬が上がっています。
2. 結果、多くの病院は深刻な経営難に陥っています。
3. また、医療・介護に従事する数多くのスタッフの賃金を、他産業と同じように上げることが難しくなっています。
4. 物価・賃金の上昇に適切に対応した診療報酬の仕組みが必要なのです。

このままではある日突然、病院がなくなります



健生
クリニック
病院
ホームページ

ははじめに弘前市市民協
働課ひろさきボランティ
アセンターから入門編と
題して講話があり、ボラ
ンティア学校2025

5月24日、健生病院にてボランティア学校が開催され、組員9名が参加しました。

「思い」「ニーズ」「技量」の共助
ボランティア学校2025
5/24

医師からの紙ヒヨーキ

19



研修研鑽、休みに温泉巡り

健生病院 研修医 そうわ ゆうま
相和 侑馬

ある「鰐 come」です。温泉が綺麗なだけでなくサウナや露天風呂もあり大きな休憩スペースがあることも魅力的なところです。もし温泉で見かけた際には声をかけてくださると嬉しいです。

健生病院での勤務が4月からはじまって3ヶ月が経ちました。TY研修として1年間内科系の診療科をローテートさせて頂いておりますがこの3ヶ月間は総合診療科で学ばせて頂きました。健生病院の総合診療科の特徴の一つと言えば様々な疾患の方が入院されていることだと思います。また入院患者の数も多く総合診療科の先生方は非常に多忙な状況の中、治療で疑問に思ったことや困ったことを相談すると親身になって相談に応じてくださり様々な経験を積ませて頂いております。

1年間健生病院での研修で様々なことを学び少しでも青森県の皆様の診療に還元できるように、これからも日々学び研鑽に励んで参りたいと思います。

地域組合員の方々におかれましては、平素より健生病院での診療へのご協力誠にありがとうございます。また、初期研修医を終えたばかりでまだ未熟な私を、温かい気持ちで迎え入れて頂きました方々に、この場を借りて感謝申しあげます。



健生病院の



外科・内科・皮膚科外来の混合病棟

3階西病棟は、外科・内科、外科外来・皮膚科外来を担う混合病棟となっています。外科領域では良性疾患（胆石症、ヘルニア、虫垂炎、腸閉塞等の急性腹症・気胸等の胸部疾患）から、悪性疾患ではほぼ全ての消化器がん、乳がんを扱っています。手術を中心とした周術期（外来受診から治療後、社会復帰まで）の管理と、手術の前後または切除不能がんに対する化学療法（抗癌剤治療）に対応しています。外来受診から入院、手術と術後の通院まで全て一つの部署で担う事での強み



を活かし、患者さんの不安や悩みに寄り添い、外来部門と連携して継続した看護提供が行えるように努めています。

内科領域では疾病や年齢によって、口から食事を摂る事が難しくなった患者さんが栄養摂取する為の胃瘻の造設・管の交換を行っています。弘前脳卒中センターを中心に、弘前市内の医療機関や高齢者施設とも連携しています。

退院後の療養環境に配慮

また、当病棟では退院支援にも力を入れています。青森県は高齢化率（人口に対して65歳以上の割合）が2024年度34.9%であり、県全体の約半数の20市町村が40%を超えるなど、地域の高齢化が進んでいます。病気を患い治療して良くなったりが今までと同じ生活に戻るのに不安がある人や、援助を必要としているが近所に親戚や子供などの頼れる人が稀薄な方などに入院直後から介入する事で少しでも



不安を取り除き、治療に集中できるような環境を整えられるように努めています。退院までで終わりではなく、退院後の療養環境を調整し、安心して過ごすことができるよう援助しています。

* * *

病気に罹患し、手術や処置に対するリスク・痛みや不快感・病床環境・経済的（社会的）な不安など病院で治療する事に対しての不安はとても大きく多岐に渡ります。病気の進行や今後の生活の質の低下などの未来への不安など、患者さんが抱えるこれらの不安を少しでも軽減できるよう努めています。

（3階西病棟看護長 三上浩太郎）

